



神戸新聞

発行所
神戸新聞社
 郵便番号 650-8571
 神戸市中央区東川崎町
 1-5-7
<http://www.kobe-np.co.jp/>

被災地の希望 神戸で満開

中国・四川やスマトラ島など、世界の大地震被災地で撮影した子どもたちの顔をプリントした傘が、阪神・淡路大震災から16年を迎える神戸の街に、笑顔が開いた。9日、神戸市中央区東川崎町1 (撮影・岡本好太郎)

震災の「記憶」が刻みこまれた岸壁を、子どもらの笑顔がプリントされた傘が囲んだ。神戸市中央区波止場町、神戸港震災メモリアルパーク (撮影・岡本好太郎)

被災地から元気発信



アートディレクターの水谷孝次さん(59)＝東京都＝が手掛ける「メリプロジェクト」の一環。同プロジェクトでは、世界中で笑顔を撮影、発信している。水谷さんは2001年、震災後に寄せられた支援への感謝を発信しようと、神戸・阪神間で撮影した女性の笑顔を集めた写真展を神戸市内で開催。今回、10年前に展示した写真の一部に、中国・四川やスマトラ島など大地震被災地の子どもらの写真も加えて、あらた

震災16年

世界の被災地で撮影した子どもたちの「笑顔」がプリントされた傘を広げ、神戸から幸せを発信するイベント「MERRY IN KOBE(メリイン神戸)」が9日、神戸市内で開催された。阪神・淡路大震災から間もなく16年。県内外から集まった約50人がそれぞれの思いを胸に「笑顔の花」を神戸の街に咲かせた。(1面参照)

メリイン神戸 笑顔の傘 街を行く

この日、参加者は神戸港震災メモリアルパーク(同市中央区波止場町)に集まり、大地震を乗り越えた子どもたちの「笑顔の傘」を披露。その後、傘を差しながら神戸の市街地や観光地を歩いた。10年前に撮影された自らの「笑顔の傘」を手にする参加者もいた。また、関西学院大4年生の沖田誠さん(21)は県外からの参加者に対する「語り部」も務め、「同級生を亡くした震災はつらい記憶だけれど、生きることへの感謝を思い知らせてくれたのも震災だった」と思いを語った。愛知県稲沢市から参加した会社員、市川武史さん(28)は「被災した体験をしっかりと聞いたのは初めてだった。時間がたっても被災者の思いや地震の教訓を忘れないようにしたい」と言葉をかみ締めていた。(金 曼華)